

文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲『寺子讀書千字文』1799年(寛政11)(野尻喜平治家文書 I0076-01230 当館蔵)

第24号 目次

特集1「文書館で、あう、かく、なおす」	2
特集2「公文書・古文書の旅 —資料の収集から公開まで—」	4
歴史的公文書紹介 「ロシアタンカー油流出事故がもたらしたもの」	6
寄贈資料紹介	7
お知らせ	8

第24号

2016.11

福井県文書館

文書館で、あう、かく、なおす

資料が閲覧できる、展示が観覧できる、それだけが文書館ではありません。時間旅行もできて、創作活動もできて、スキル習得もできる。福井県文書館は、こんなところですよ。

❖ 資料に会う、過去へ行く — タイムトラベル 文書館

展示は、資料の原本が活躍する数少ない機会の一つです。そして、その展示に欠かせないのが、展示ケースです。目立たない資料も、展示ケースに入れば貫禄たっぷり。ですが、ガラスを一枚へだてるだけで、どこか遠い存在になってしまいます。

公文書であれ、古文書であれ、今となつては「歴史的」な文書も、元はといえば「現用」の文書です。とくに冊子や卷子は、今でも開いて巻いて、捲^{めく}って戻して、読むためには動かさないといけません。細



▲NHK学園 生涯学習通信講座の学習イベント「古文書巡見」

部から、質感から、音から、重さから、時には匂いから、展示ケースの外で資料と直に接すれば、いろいろな情報が流れ込んできます。

文書館では研修や見学など、展示以外にも、資料の原本にふれる機会があります。資料保護のため、時間や取り扱いには制限が設けられますが、その間だけは、歴史的な文書も現用の文書の姿に戻ります。



▲大阪大学 日本史研究室の研究室旅行

❖ 文字を書く、絵を描く — アトリエ 文書館

2015年(平成27)は月替展示「時代のおとしもの 落書」にあわせて「らくがき」、2016年は月替展示「時代をうつす10人の手紙」にあわせて「絵手紙」。去年より夏休み期間中にワークショップを開催しています。

ワークショップといっても、講師はおらず、開催中なら「いつでも」、子どもから大人まで「だれでも」、身一つで「きがるに」、申込不要・無料で体験できる自由参加型です。また、その内容も、決まった形を目指すのではなく、参加者の創造力に任せる創作型です。

そのため、文書館は体験の環境を整備して場所を提供するだけで(質問等には受付に常駐している職員が対応)、このワークショップを動かしているのは、参加者一人ひとりの主体性です。



▲展示資料の「墨書石」にならって石を見立てる「らくがき」



▲「絵手紙」も立派な手紙

参加者の中には、文書館そのものが初めてという利用者も多く、お一人様から家族連れまで、いろんな方々が机を並べて創作に打ち込んでいます。そのせいか、ちょっとした緊張感も生まれ、自然と熱中度が高まって滞在時間も長くなるようです。

まだ2回、2年目ですが、文書館にとっても未利用者層との大きな接点になっています。次はといった、どんなワークショップになるのでしょうか。来年の夏休みをお楽しみに。

❖ 記録を直す、遺産を守る — 修復工房 文書館

資料はどれも1点もの。替えはききません。そのため、土器や絵画の保存修復と同じように、文書館でも資料を修復（補修）しています。



▲「下張り」から「古文書」へ

文書館では、国際アーカイブズの日（国際公文書館会議の発足日*）にちなんで、毎年6月に資料保存関連の行事を開催しています。その一つが、公開補修です。和紙の紙片で資料の穴を埋める「繕い」という簡単、かつ地味な作業ですが、これも一つの修復の仕方、立派な資料保存です。

また、昨年3月には、月替展示「屏風の下張りタイムカプセル」の関連企画として、下張りはがしの実習を開催しました。

実際に古い屏風や襖を解体して、下張りを一層一層はがしていきます。紙を引きはがしたり、水をかけたり、公開補修の「繕い」とは違って変わってダイナミックな作業ですが、これもやはり修復、資料保存です。

* 1948年（昭和23）6月9日



▲エントランスでの「公開補修」

■ 表紙写真 ■ 『寺子読書千字文』 1799年（寛政11）野尻喜平治家文書（当館蔵）I0076-01230

『千字文』は、天文、地理、政治、歴史などの森羅万象について述べた、重複のない千の漢字を四字一句とする二百五十句からなる韻文です。梁の周興嗣しゅうこうしが書いたもので、中国における初学の漢字学習用教科書であったとともに、習字手本でもあり、日本に伝来されてからも同様に用いられていました。『寺子読書千字文』には、『千字文』の本文が楷書と行書の二体で記されています。また、「千字文由来」、「筆、墨、紙、硯説」、「和漢文字の始」などの付録記事も掲載されており、漢字習得のために押さえておくべきことが学べます。



公文書・古文書の旅 —資料の収集から公開まで—

福井県文書館は、福井県の歴史を知る上で貴重な資料となる公文書・古文書・行政刊行物などを収集・保存し、広く一般に公開して、利用者の皆さんの歴史研究・生涯学習を支援しています。

ここでは、公文書と古文書の収集から公開までの流れを紹介します。

公文書

県庁およびその出先機関において、保存期間が満了し、廃棄が決定された公文書のうち、特に歴史的な価値が認められるもの（歴史的公文書）を選別して収集します。



目録公開

目録作成

県庁・出先機関
の歴史的公文書
を選別・収集

くん蒸

公文書を一冊ずつ確認しながら、詳しい目録を作ります。目録はデジタルアーカイブから検索できます。



古文書

(寄贈・寄託資料)

地区・家・寺社・
企業などから
受け入れ

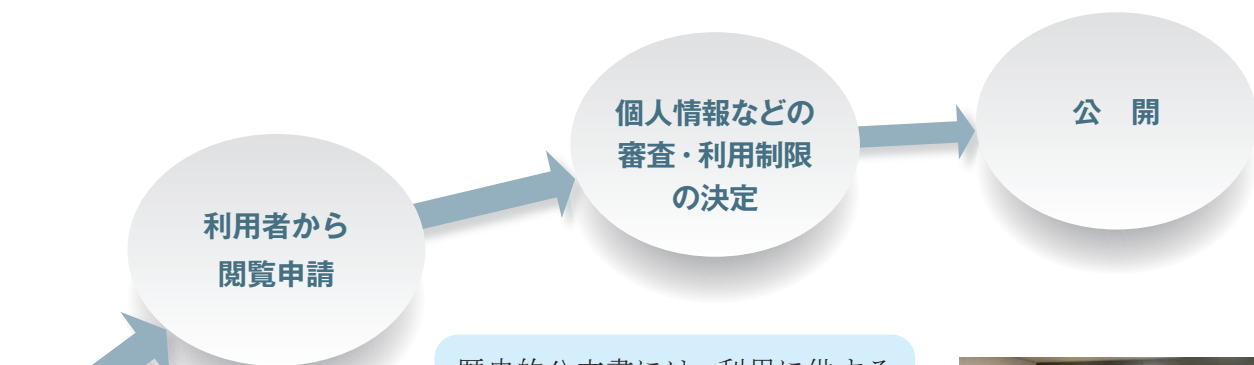
福井県の歴史を知る
上で重要な古文書を
収集します。

公文書・古文書は、文書館に搬入後、二酸化炭素による殺虫処理を行います。公文書は一括で被ふくくん蒸を実施し、古文書はくん蒸庫を利用し、年3～4回実施しています。

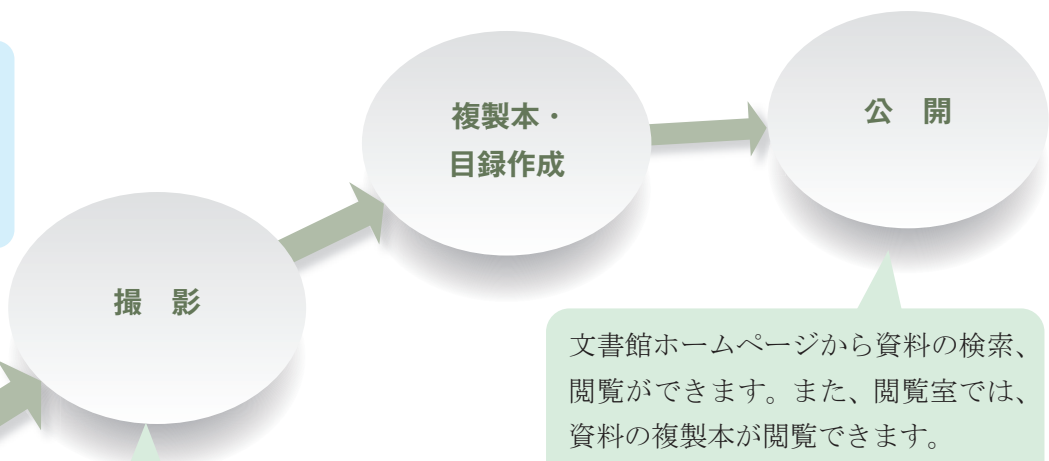
くん蒸

調査・整理

古文書を一つずつ
確認しながら調査
カードを作成し、
整理します。



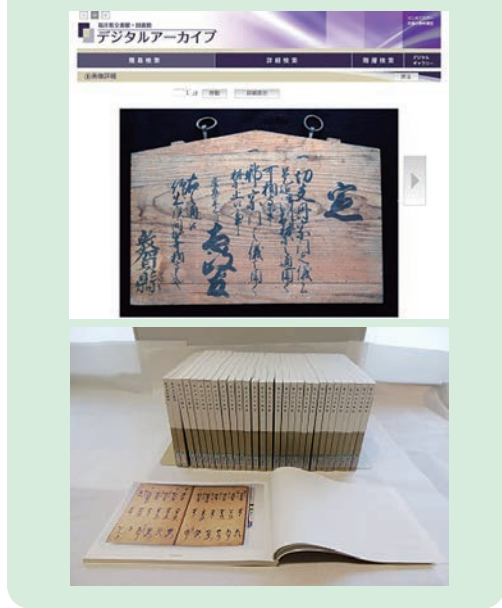
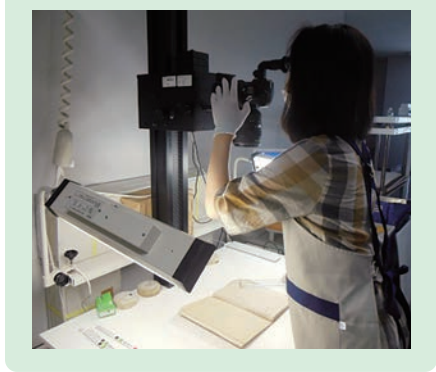
歴史的公文書には、利用に供することにより個人の権利利益を害するおそれがあるもの、法人その他の団体の正当な利益を害するおそれがあるものなどが含まれています。このため、文書館では閲覧申請のあった歴史的公文書について審査を経て利用に供しています。



文書館ホームページから資料の検索、閲覧ができます。また、閲覧室では、資料の複製本が閲覧できます。

個人情報
などの審査

デジタル画像公開、複製本作成のために資料を撮影します。



◆◆◆ 歴史的公文書紹介 ◆◆◆

ロシアタンカー油流出事故がもたらしたもの

1997年（平成9）1月2日未明、島根県隠岐島沖日本海でロシアタンカーが沈没しました。その船首部分が強い季節風にあおられ漂流し、三国町安島沖に座礁、大量の重油が日本海沿岸12市町村全てに押し寄せ、自然環境や地域住民の生活に深刻な影響を与えました。

この時、重油除去のために大規模なボランティア活動が行われたことが、後に福井県の行政と災害ボランティアのかかわり方が変わるきっかけとなります。

福井県県民生活部消防防災課発行の『ロシアタンカー油流出事故 災害の記録と教訓』には、災害の状況、組織、災害対策、支援活動などが詳しく掲載されています。福井県は1月7日に災害対策本部を設置し、関係機関との協力のもと、24時間体制で情報収集や資機材支援にあたりるとともに、自衛隊や関係漁協、さらには大勢のボランティアの方々への応援を得て応急措置を実施したことがわかります。



▲「防災会議」消防防災課
(1997年度) 33789



▲船首座礁付近でのオイル回収（1997年）86495

また、福井県文書館には、災害対策基本法で実施が義務づけられている「防災会議」の資料綴りが残されています。2月10日の会議資料では、災害の概要や各機関の取組みを共有し、今後の取組みについて議論しているようすがうかがえます。また、4月25日の会議資料には、ロシアタンカーの油流出事故における災害活動を踏まえ、福井県地域防災計画を改訂するとあります。改訂の主なポイントとして、情報収集と伝達のあり方、初動体制と災害対策本部のあり方などを明確化することをあげています。また、義援物資対策やボランティア対策などを検討していくとあります。

福井県ではその後、再び福井県内で災害が発生した場合に、県内のボランティアセンターが運営できるよう「福井県災害ボランティアセンター連絡会」が組織され、行政と民間が連携し、相互に補完し合いながらボランティア活動に取り組む下地ができあがりしました。2004年（平成16）の福井豪雨の際には、センター連絡会が中心となり機動力が大いに発揮されました。そして、二つの災害を通じ、福井県独自の取組みを構築してきたことが、「福井県災害ボランティア活動推進条例」の制定へとつながりました。その前文では、協働の理念に基づく活動の重要性を全国に発信し、福井県が災害ボランティア活動の先進県となる旨を述べています。文書館では、この資料以外にも、他の所属が作成した重油事故関連の歴史的公文書や写真が保管され、これらは後世に伝えるべき大切な資料となっています。



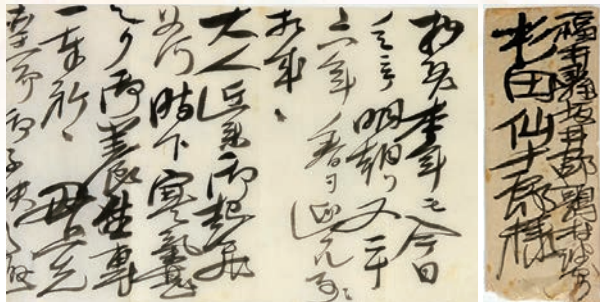
▲船首座礁付近でのオイル回収（1997年）86494

◆◆◆ 寄贈資料紹介 ◆◆◆

複製本ができたものから公開しています。

● 池内啓収集（杉田家旧蔵）文書（A0174）

杉田定一を研究していた、故 池内啓氏（福井大学名誉教授）の収集資料です。杉田定一は1851年（嘉永4）、福井藩の大庄屋も務めた坂井郡波寄村の豪農仙十郎・隆夫妻の長男として生まれました。地租軽減と国会開設を求めた自由民権運動の指導者として知られています。寄贈資料は、最晩年の仙十郎にあてた定一の手紙など311点です。

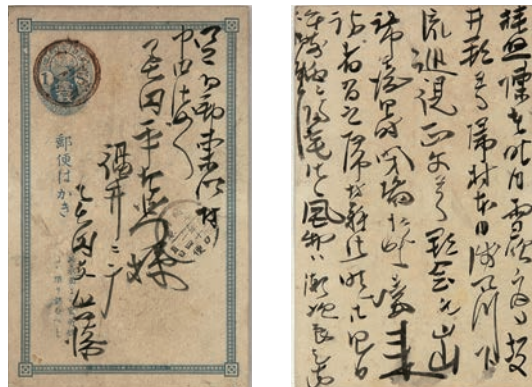


▲「歳暮年始旁近況報告の書状」
（仙十郎にあてた定一の手紙）A0174-00120

● 奥田与兵衛家文書（A0179）

奥田家は足羽川下流の左岸に位置する中毘沙門村の農家です。奥田与兵衛は平左衛門の長男として生まれ、教員を経て、県会議員、東郷村初代村長となり、足羽郡会議員も務めました。その後、杉田定一の南越自由倶楽部に加わり、足羽郡委員となり、自由党にも属しました。

寄贈資料は自由党員としての活動のようすがうかがえる書簡など388点です。



▲「雪吹時巡視二付書簡」
（平左衛門にあてた与兵衛の手紙）A0179-00280



● 清水政右衛門家文書（A0194）

寄贈資料は越前国坂井郡波寄村の地籍絵図など5点です。波寄村は九頭竜川下流左岸、丹生山地北麓の砂地の小丘陵東麓に位置しました。

◀「越前国坂井郡波寄村字限自巻号至五十号地籍絵図」（部分）
A0194-00001

新たに公開した古文書紹介

前号紹介後に新たに公開した資料群は以下の通りです。（寄贈・寄託資料は除く）

- | | | |
|--------------------|---------------------|--------------------|
| ● A0175 安達利雄家 福井市 | ● A0195 佐々木与三吉家 福井市 | ● A0196 辻俊雄家 福井市 |
| ● C0128 杉本新助家 坂井市 | ● F0061 小谷正典家 鯖江市 | ● J0094 山内勲兵衛家 勝山市 |
| ● K0015 小森清兵衛家 福井市 | ● X0081 織田利右衛門家 石川県 | |

文書館講座のご案内

■フィアラ先生の世界をつなぐゼミナール

- 第5回「逆落としから壇ノ浦まで
熊谷と敦盛、那須与一」(仮)
日時：平成29年1月21日(土) 13:30～15:00
- 第6回「断絶平家と灌頂巻」(仮)
日時：平成29年3月4日(土) 13:30～15:00
講師：カレル・フィアラ
(文書館副館長、福井県立大学名誉教授)

会場：文書館研修室

定員：40名(要事前申込)

* 問合わせ・申込みは文書館まで。

■アーカイブズ 専門講座「ふくいの歴史資料を読み解く」

- 第1回「越前一向一揆と信長の攻防
一五月二十日付羽柴秀吉書状をめぐる」
日時：平成28年12月11日(日) 13:30～15:00
講師：藤井 譲治 氏(京都大学名誉教授)
- 第2回「福井県下の連合国軍捕虜」(仮)
日時：平成29年3月26日(日) 13:30～15:00
講師：木村 亮 氏(福井大学教授)

会場：図書館多目的ホール

定員：70名(要事前申込)

叢書発刊予定のお知らせ

今年度の『福井藩士履歴』5 福井県文書館資料叢書13は、平成29年3月末ごろ発刊予定です。既刊に続く「の～ま」の準備を進めています。

既刊資料叢書と同様に、希望者には文書館閲覧室あるいは送料実費負担にて配布します。

ご利用案内

■ 開館時間

午前9時から午後5時まで

■ 休館日

月曜日(国民の祝日を除く)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日は除く)
文書等点検期間(年間10日以内)
年末年始
清掃整理日(第4木曜日、祝日の場合は翌日)

■ フレンドリーバス(無料)をご利用ください。



編集後記

文書館だより第24号をお届けします。今号では文書館で行っている体験活動と公文書・古文書の資料の収集から公開までの流れを特集しました。今後とも文書館に親しみをもって利用していただくために、さまざまな取り組みを行っていきます。



文書館だより Fukui Prefectural Archives 第24号

2016年(平成28)11月16日発行

編集・発行/福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.library-archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井